

[トップページ](#) > [メソッド](#) > [進化する組織の人間学](#) > コロナ禍でも深まるコミュニケーション
訪問看護S Tが取り組む進化型HIT-Bitとは



メソッド

進化する組織の人間学



患者サービス研究所
代表
三好章樹

コロナ禍でも深まるコミュニケーション 訪問看護S Tが取り組む進化型HIT-Bitとは

2020年08月07日

医療現場を支えるプロ意識とコミュニケーション

多くの現場が、コミュニケーションをより豊かにし、指示命令によらない自律進化によって、高いパフォーマンスを実現できる組織を望ましく思っていることでしょう。

その上、コロナ禍の今にあっては、そのコミュニケーションの取りようがなく、職員が退職するという例もあります。一方、「今、医療現場を支えているのは、プロ意識と仲間同士のコミュニケーションだ」という病院経営者もいます。

その中で、コミュニケーションを大切にすることで、ますますスタッフ間の信頼関係を築き、業績の向上を実現している訪問看護ステーションがあります。

東京都町田市にある「ティエル訪問看護リハビリステーション町田」です。今回はそのティエル町田の取り組みを紹介します。

クラウド上で行われるHIT-Bit

訪問医療・介護事業が、一人で訪問するサービスである性質上、コミュニケーションをとりにくい現場であることはいうまでもないでしょう。そこで、ティエル町田が導入したのが進化型「HIT-Bit」でした。

「ティエル訪問看護リハビリステーション町田」の基本理念は、患者・利用者の「したい」「やりたい」を「かなえる」「支える」です。これは、職員にとっても価値観を解放できる職場でありたいということを意味しています。

メソッド

メソッド

真説・病院広報のチカラ

深掘ケーススタディ経営改革力

進化する組織の人間学

タイムスインタビュー

今月のデータ

新春寄稿 日本医師会 横倉義武会長

特別企画

HIT-Bitとは、1日5分、職員が集まって1人ひとと言、その日感じたことや考えていることを発言するコミュニケーション・モデルです。毎日の自己開示と他者承認を習慣化することを通じて、「本音を話し合い、応援し合う」組織体質を実現する手法です。



進化型「HIT-Bit」に取り組むティエル町田の皆さん

ティエル町田では、「職員同士がお互いに理解し合い応援し合う」ことが、「患者・利用者のしたいを支える」前提であると捉え、2月から、毎夕オフィスで集まってHIT-Bitを開始しました。

しかし、新型コロナウイルス感染防止の観点から、3月から対面でのHIT-Bitは中止となりました。そこで生まれたのが、クラウド上にフォームを設け、各人がパソコンやスマートフォンからコメントを書き込む進化型「HIT-Bit」でした。以来、約5カ月間を振り返ったスタッフからの声を掲載します。

[トップページ](#) > [メソッド](#) > [進化する組織の人間学](#) > コロナ禍でも深まるコミュニケーション
訪問看護S Tが取り組む進化型HIT-Bitとは



メソッド

進化する組織の人間学



患者サービス研究所
代表
三好章樹

コロナ禍でも深まるコミュニケーション 訪問看護S Tが取り組む進化型HIT-Bitとは

2020年08月07日

多忙で個別行動のスタッフが、互いに理解し合う

「みんなの言葉がストレートに伝わる感じがして、とても楽しみ。翌日の活力になっています」

「自分自身の悩ましいこと、困っていることなどを話せる場となり、それに対して返事をいただくなど非常にうれしく、モチベーションが上がった」

「なかなか会えないメンバーともコミュニケーションがとれて、業務がしやすくなりました」

「密を避けるため雑談ができない中、HIT-Bitを読んでスタッフの体験や気づきがみんなで共有できるところが素晴らしいと思います」

「利用者様が調理のリハビリテーションに取り組まれている進行状況など、各スタッフが訪問の現場で取り組んでいることが見える化できるようになりました」

「話し合える土壌ができた。また、話がまとまって簡潔にコミュニケーションがとれる場面が増えたと感じます」

「個々が何を考え感じているのか、知らなかった一面を感じることもできた」

これらの発言から、あたかも毎日、全員が顔を合わせているような職場の空気が感じられます。

心の解放によって職員が元気に

メソッド

メソッド

真説・病院広報のチカラ

深掘ケーススタディ経営改革力

進化する組織の人間学

タイムスインタビュー

今月のデータ

新春寄稿 日本医師会 横倉義武会長

特別企画

多忙で負荷のかかる医療現場で、最も重要なコミュニケーションとは、「相互理解が築かれる対話」にほかなりません。人は、周囲に「気持ちを分かってもらえている」ということが、最大の心の支えとなるからです。

したがって、▽まず各人が自己開示を習慣化すること▽それをみんなが承認して聞くこと▽そしてその対話を定常化すること—これを、職員任せにしている、多忙な現場では決してよいコミュニケーションが生まれることはありません。

現場を活性化するためには、こうしたコミュニケーションを組織の中で意図的に実装しなければなりません。

その代わり、心を解放することによって、職員が元気になり、職員同士が風通しのよい支え合える関係性を築くことが可能となります。

ティエル町田では、経営者・上層部が「“したい”を叶える」という理念を掲げ、患者・家族・職員すべてが、自分らしく生き生きとすることの実現に努めてきたことが、HIT-Bitをより一層効果的なものにしたといえるでしょう。

皆さんの現場においても、職員の方々は、さまざまな思いを抱え、日々の現場に臨んでくださっていることでしょう。それを吐き出し、互いに応援し合う機会や関係性が乏しいとすれば、現場は危険な状態かもしれません。

[トップページ](#) > [メソッド](#) > [進化する組織の人間学](#) > コロナ禍でも深まるコミュニケーション
訪問看護S Tが取り組む進化型HIT-Bitとは



メソッド

進化する組織の人間学



患者サービス研究所
代表
三好章樹

コロナ禍でも深まるコミュニケーション 訪問看護S Tが取り組む進化型HIT-Bitとは

2020年08月07日

むしろ、今こそ、「いつもみんなに分かってもらえている」と感じられ支えとなるコミュニケーションを導入することをお勧めします。

<<HIT-Bitセミナー 開催中>>

いずれもオンラインです

8/29 (土) 13:30~16:30

9/19 (土) 13:30~16:30

参加には予約が必要です。→[こちら](#)

<<HIT-Bitのブックレット(800円)>>

『結果にコミット！自律進化組織が6ヶ月で生まれる方程式』
(A5判、76ページ)

数に限りがあります。ご容赦ください。

詳細は[こちら](#)

メソッド

メソッド

真説・病院広報のチカラ

深掘ケーススタディ経営改革力

進化する組織の人間学

タイムスインタビュー

今月のデータ

新春寄稿 日本医師会 横倉義武会
長

特別企画

